

4年目の“猪名川公園のヒメボタル幼虫調査・観察会”を実施 ～ヒメボタルの幼虫を観察して、猪名川の環境を考えよう～

～猪名川河川事務所～

神崎川水質汚濁対策連絡協議会猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)の主催で、『猪名川公園のヒメボタル幼虫調査・観察会』を、**流域の市民団体、NPO団体及び一般募集した市民の皆さんの総勢49人**で実施しました。

皆さんの協力により、新型コロナウイルス対策として検温やアルコール消毒等をしっかり行うことで、この4年目の調査・観察会を開催することができました。今回は昨年洪水対策のため伐採した河川内の樹木が、再び生い茂った環境にホタルの幼虫がちやんと生息しているか確認する調査にもなりました。参加者は地元・尼崎市からが多かったですが、近隣の伊丹市や豊中市からも参加してくれました。

- 開催概要**
- 日時:【設置】令和2年11月28日(土)【回収】令和2年12月5日(土)
 - 場所:猪名川公園付近の猪名川右岸河川敷(猪名川3.4k)
 - 参加人数:【設置】25人【回収】36人
 - 内容:トラップの設置・回収、幼虫観察、ヒメボタルの話
 - 主催:神崎川水質汚濁対策連絡協議会猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)
 - 協力:池田・人と自然の会、猪名川ヒメボタルの会、猪名川流域ひめぼたるネットワーク、(順序不同) 自然と文化の森協会、流域ネット猪名川、大阪府立刀根山高等学校生物エコ部

イベントの様子

【トラップ設置】ヒメボタルの幼虫を捕まえるためのトラップについて学び、設置しました。トラップは直径3センチほどのフィルムケース型で、中には幼虫をおびき寄せるための餌を入れ、地面に埋め込んで設置します。今回は全部で180個のトラップを設置しました。



【トラップ回収】一週間後、仕掛けたトラップを回収し、中にヒメボタルが調べました。その結果、今回の調査ではヒメボタルの幼虫は捕獲できませんでした。その原因として、今回はトラップの設置期間中、ヒメボタルの幼虫が活発に動き回ってトラップへ入りやすくなるような、雨の日や気温の高い日がなかったことも影響しているとみられます。今回は残念ながら幼虫が捕獲できませんでしたが、協力団体の皆さんから2020年夏季の猪名川のヒメボタルの活動状況を紹介してもらい、引き続き幼虫・成虫の発生状況等を継続して調べていくことが大事だという認識を、参加者の皆さんと共有しました。また調査結果の発表の後、事務局が用意したヒメボタルやヤエヤマヒメボタルの幼虫を観察することができました。



参加者の声

- 『パネルで説明があってヒメボタルの幼虫のお話がとてもわかりやすかった』
- 『本日の結果は0匹でしたが、幼虫調査のやり方を知れて良かった』
- 『ホタルの幼虫の勉強になった』
- 『身近な所にホタルがるとは思っていなかったので、5月見に行ってみようと思いました』
- 『小さな子供でも楽しんで参加でき、自然に興味を持ててよかった』

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111(代)

